

令和7年度 宮城県 英語教育改善プラン

目標

小中高の連携と指導・評価の一体化に重点を置いた研修を充実させ、教員の指導力と授業の質を高め、児童の英語力の向上を図る。

言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

① R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、児童の意識の変容が見られる。

- ・「英語の勉強は好きだ」
R5:66.9% ⇒ R6:67.2%
- ・「英語の勉強は大切だ」
R5:88.4% ⇒ R6:89.0%

② 発信型英語教育拠点校事業にて、3地区の小・中・高等学校が指導の系統性を踏まえた指導計画の作成と授業開発を実施。異校種間交流により、児童の学習への意欲向上へつながる。

未だ改善が必要な点

① 学習内容の理解に自信のない児童が多い。

「英語の授業の内容はよく分かる」
(R6 全国学力調査 77.3%)

② パフォーマンステストを実施する学校の割合が100%に満たない。
(R5 英語教育実施状況調査 94.8%)

2. 要因分析

① 言語活動について理解が進み、多くの学校において言語活動の実践が充実してきたことで、英語学習に対する意欲や意識の向上につながったと考えられる。

② 小中高学校の外国語担当教師が評価の方法や小中高連携の実践について話し合いを進めた結果、学習指導の一貫性や継続性が高まり、児童が学習の見通しを持ちやすくなり、学習への動機付けが高まったと考えられる。

① 言語活動の目的が児童に伝わっておらず、「なぜこの英語を使うのか」が分からないため、学習内容とのつながりが見えにくくなっていると考えられる。

② 指導者の評価基準や評価方法における理解が不十分で、実施に不安を抱いていると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②①②英語専科教員対象の研修の充実

言語活動を通じた指導に係る具体やパフォーマンス評価についての更なる理解促進のため、県内全ての英語専科教員を対象に事前オンデマンド研修を含む研修会を実施する(6月・11月)。

【研修内容】

- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や言語活動を通じた指導、指導と評価の一体化等に係る説明動画の視聴、PDF資料閲覧(参考URL: 県内の教員対象の限定公開のためURLは非公開)
- ・ nextchannelの視聴 など

②①②小中高連携の視点・指導と評価の一体化の視点からの研修

小・中・高のつながりを踏まえた言語活動の在り方や指導と評価の一体化等の具体について理解を深める機会とするため、研修内容を工夫する。

【研修内容】

- ・ 小学校の教科書や中学校の新教科書に関する小・中・高校教員協働のワークショップ
- ・ 指導と評価の一体化に関する小・中・高校教員相互の情報交換
- ・ 発信型英語教育拠点校事業における研究成果の普及

①①②小学校英語専科指導に係る加配定数の活用

県として教科担任(英語) 69名、非常勤講師(英語) 7名を加配定数として定めている。また、新規採用については中学校又は高等学校の英語の教員免許を持った受験者を「一定の英語力を有する者」として定義し、令和7年度は新規採用者212人のうち19人(全体の9.0%)が該当する。

令和7年度 宮城県 英語教育改善プラン

小中高の連携と指導・評価の一体化に重点を置いた研修を充実させ、教員の指導力と授業の質を高め、生徒の英語力の向上を図る。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6: 44.9% ⇒ R7: 50%)

目標

- 言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

- ①「言語活動を行った」と捉える生徒の割合の増加 (R6全国学力・学習状況調査)
- ・ 聞いて概要や要点を捉える活動
R5: 78.4% ⇒ R6: 84.2%
 - ・ 読んで概要や要点を捉える活動
R5: 78.4% ⇒ R6: 84.2%
- ②言語活動の実施についての教師と生徒の意識の乖離が大幅に縮小 (以下、各活動を「実施している」と回答した生徒の割合 - 教師の割合)
- ・ 聞いて概要や要点を捉える活動
R5: -16.3 ⇒ R6: -10.0
 - ・ 読んで概要を捉える活動
R5: -16.6 ⇒ R6: -8.3
- ③発信型英語教育拠点校事業において、3地区の小・中・高等学校が指導の系統性を踏まえた指導計画の作成と授業開発を実施。異校種間交流により、生徒の「話すこと」への自信につながる。

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①全国平均と比較すると、実施が不足している言語活動が見られる。
- ・ 即興で伝え合う活動 (R6: -10.7)
 - ・ まとまった内容を発表する活動 (R6: -6.6)
- ②パフォーマンステストを実施する学校の割合が100%に満たない。(R5英語教育実施状況調査 85.8%)

2. 要因分析

- ①②研修会において、言語活動を通じた指導の具体等を示したことで、教師の意識が変わり、授業が言語活動を中心としたものに改善された。その結果、生徒が目的場面状況を捉えて、主体的に言語活動に取り組むなど、生徒の意識が変容した学校が増加したものと考えられる。
- ③小中高等学校の外国語担当教師が評価の方法や小中高連携の実践について話し合いを進めた結果、学習指導の一貫性や継続性が高まり、生徒が学習の見通しを持ちやすくなり、学習への動機付けが高まったと考えられる。

- ①「即興で伝え合う言語活動」の具体や指導方法における理解が不十分で、実施に不安を抱いていると考えられる。
- ②パフォーマンステストの実施や評価処理までにかかる労力が大きい。また、教員間の評価基準の共通理解が不十分な場合がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②①②データに基づいた研修の充実
- 全国学力・学習状況調査や英語教育実施状況調査の結果分析から県内の成果と課題を踏まえ、指導と評価の一体化等の具体について理解を深める機会とするため、研修内容の充実を図る。
- 県内全ての英語科教員を対象にした事前オンデマンド研修を含む研修会を実施する (6月・11月)。
- 【研修内容】
- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や言語活動を通じた指導、指導と評価の一体化等に係る説明動画の視聴・PDF資料閲覧 (参考URL: 県内の教員対象の限定公開のためURLは非公開)
 - ・ nextchannelの視聴 など
- ①②②英検IBAの活用 (客観的データに基づいた授業改善)
- 全県中学2年生が英検IBAを受験。生徒の英語力を客観的に把握して授業改善に生かす。結果の活用方法や県全体の課題に対する具体的な取組について、研修会等で周知する。
- ③①②小中高連携、指導と評価の一体化の視点からの研修の工夫
- 小・中・高のつながりを踏まえた言語活動の在り方や指導と評価の一体化等の具体について理解を深める機会とするため、研修内容を工夫する。
- 【研修内容】
- ・ 小学校の教科書や中学校の新教科書に関する小・中・高校教員協働のワークショップ
 - ・ 指導と評価の一体化に関する小・中・高校教員相互の情報交換
 - ・ 発信型英語教育拠点校事業における研究成果の普及
 - ・ 話すこと(やり取り)の指導 (参考URL: R3専門研究成果物 外国語教育研究グループ)



令和7年度 宮城県 英語教育改善プラン

目標

小中高の連携と指導・評価の一体化に重点を置いた研修を充実させ、教員の指導力と授業の質を高め、生徒の英語力の向上を図る。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6 : A2以上48.9%、B1以上20.6% ⇒R7 : A2以上53%、B1以上23%)

言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①授業に占める生徒の言語活動の割合が増加 (R5:46.6%→R6:50.8%)
 ②発信型英語教育拠点校事業において、拠点校3校が小・中学校と連携し、指導の系統性を踏まえた授業改善研究を実施。異校種間交流により、生徒の「話すこと」への自信につながった。

①教師の発話の50%以上を英語で行っている学校の割合が低下。(R5:35.7%→R6:32.3%)
 ②教師の英語力(B2以上)は、昨年度から改善したものの、全国値との乖離がまだ大きい。(R5:63.1%→R6:66.7%)

2. 要因分析

①特に専門学科における状況が大きく改善。悉皆研修において、「言語活動を通して指導すること」をテーマとし、授業づくりのワークショップを行ったことで、言語活動中心の授業のイメージが明確になり、授業改善が進んでいる。
 ②小中高連携の実践により、学習指導の一貫性や継続性が高まった。生徒は学習の見通しを持ちやすくなり、学習への動機付けが高まったと考えられる。

①生徒と英語でやり取りをしながら効果的に理解を深めさせたり、生徒同士の議論をファシリテートしたりといった指導スキルに課題がある。
 ②教師の英語使用状況がまだ十分ではなく、教師の英語力向上に対する必要感が弱い可能性がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①②**Teacher's Empowerment Project (教員研修の充実)**
 総合教育センターとの連携を密にし、言語活動中心の授業を展開するための指導法・指導技術を協働的に学ぶ教員研修を一層充実する。

【研修内容】

- ・ 学習指導要領の趣旨と指導と評価の一体化について理解を深める講義
- ・ 発信力向上を目指した「話すこと(やり取り)」における指導(今年度の研修テーマの重点)についての講義とワークショップ
- ・ レベル別のグループ分け(B1を目指す層・A2を目指す層)によるマイクロティーチング

①①②**英検IBAの活用(客観的データに基づいた授業改善)**

全県立高校2年生が英検IBAを受験(3か年計画)。生徒の英語力を客観的に把握して授業改善に生かす。

【生徒】具体的目標設定と学習の自己調整に生かす。

【教師】生徒の力を客観的に把握し、実情と課題を踏まえて授業改善を図る。

【県】英語教育の課題を捉えて教員研修の充実に生かす。

①②①②**発信型英語教育拠点校事業(小中高連携の視点からの授業改善)**

3校の拠点校が、地域の小・中学校(研究協力校)との連携により、指導の系統性を踏まえた指導計画の作成と授業開発を行う。各校の取組は公開授業研究会等で広く発信する。(参考URL：[発信型英語教育拠点校事業](#))

【取組の重点】

拠点校と協力校による実践事例を通して、異校種の授業から良い点を学び合うとともに、小・中・高のつながりを踏まえた言語活動の在り方等の具体について理解を深める機会とするため、研究成果を校種を超えて共有する方策を、異校種の指導主事が協働で検討し、実践する。

宮城県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	39.6	50	48.9	53		57		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	20	15.5	20	20.6	23		27		30		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	50	46.6	55	50.8	60		65		70		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	50	51.9	55	49.2	60		65		70		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	57	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	55.8	100		100		100		100	
⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	75	63.1	75	66.7	78		82		85			
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	50	35.7	50	32.3	55		60		65			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	43.1	50	44.9	50		50		50		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	62.5	80		90		100		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	85.8	100		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	96.9	100		100		100		100	
		公表(%)	90	56.6	90		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	76.7	90		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	39.9	50	36.5	50		50		50		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	48.8	80		90		100		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	65.5	80		90		100		100
		公表(%)	90	37.9	80		90		100		100
		達成状況の把握(%)	100	53.4	80		90		100		100